

資源管理 WG 委員名簿

2018年3月6日現在

【委員】

崎田 裕子	ジャーナリスト・環境カウンセラー NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長
杉山 涼子	株式会社杉山・栗原環境事務所 取締役
細田 衛士	慶應義塾大学経済学部 教授
森口 祐一	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 教授
臼井 万寿雄	東京都オリンピック・パラリンピック準備局 大会施設部 施設調整担当課長
古澤 康夫	東京都環境局資源循環推進部計画課 資源循環推進専門課長

(敬称略、五十音順)

【オブザーバー】

勝野 美江	内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局 参事官
鈴木 弘幸	環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室 室長補佐

(敬称略)



第 1 1 回資源管理WGのまとめ

総務局 持続可能性部

第11回資源管理WGでいただいたご意見(1/6)

分野	ご指摘事項概要
他分野との関連性	資源管理分野は5分野の中でも議論が丁寧になされており、進んでいると感じる。今後は、特にWGのない3分野について議論を進めるとともに、分野相互の関係性についても目配りをした検討を進めていくべきである。
ISO20121	<p>ISO20121は持続可能なイベント運営のための非常にしっかりとしたシステムなので、大会運営の質の確保のためにしっかりと活用してほしい。</p> <p>ISO20121が掲げる統治原則として、持続可能性に対する組織の責任、組織の倫理性、透明性、利害関係者の参画の4つがある。これらについてはしっかりと取り組む必要がある。</p> <p>ISO20121を運用するにあたっては、資源（ヒト・モノ・カネ）、力量（担当者の教育訓練など）、自覚、コミュニケーション（内部・外部両方）が重要となってくる。</p>
目標・指標のありかた	<p>Indicatorの中に、目標達成のための取組と結果を把握するための方法の両方が記載されている箇所があるが、Indicatorは結果を示すためのものであり、整理した方がよい。</p> <p>Indicatorは、本来は施策に取り組んだ結果としてのアウトプットを測定できればよいが、それが難しいようなものについては、どのぐらい施策に取り組んだかというインプットの側面から測定するという方法もある。循環型社会形成推進基本計画などでも、インプットの指標は存在している。</p> <p>定量的な目標は定められなくても、結果がモニターできるような定量性のある指標は作った方がよい。</p>

第11回資源管理WGでいただいたご意見(2/6)

分野	ご指摘事項概要
食品ロス削減	調達・調理時の食品ロスが出ない工夫や、食材が余ったときの他場所での活用など、食品廃棄物になる手前側のこともしっかりと設計する必要がある。
	食品ロス削減に対して、組織委であらゆる対策をするのではなく、事業者の自主的な取組を入札時の評価に加えるなど、事業者自ら取り組むような工夫をすべき。
	食品ロスや容器包装に関して、定量的な指標は難しいが、削減の取組に参加した事業者数などを定量的に把握することで、半定量的な目標を達成していくようなマネジメントの仕方はいずれ得るのではないかと。
	食品ロス削減対策の意識啓発については、例えば、初日に食べた人と最終日に食べた人の意識の違いがあるかといったことを測ることはできないだろうか。
	大会を機に選手や観客、観光客等の受け入れが各地で増加するため、食品ロスに対して関心を持つ自治体や旅館なども増えてきている。そういった所に対して、大会時の食品ロス対策などの情報共有などができれば望ましい。
	あくまでも選手は競技のために来ているので、食品ロス対策に協力して当たり前ではない。選手が楽しみながら取り組めたり、自然と食品ロス対策ができるような仕組みを取り入れていくべきである。

第11回資源管理WGでいただいたご意見(3/6)

分野	ご指摘事項概要
容器包装	梱包材の量も膨大なので、通い箱制度の導入や調達契約時の取り決めなどを行い、納入業者・物流業者の協力や知恵を得ながら削減に取り組むべきである。
	レジ袋は、世界的に注目されているマイクロプラスチックの主要原因となっているため、しっかりとした対策を取ることが求められる。
	容器包装について網羅的な指標を作ることは難しいが、重点分野を絞ることによって定量的な指標も作りやすくなると思う。
	東京都としては、レジ袋とスポーツイベントにおけるリユースカップの導入に力を入れて取り組もうとしている。
	細かい所に絞るのではなく、やりたいことで目標を設定し、その実現手段はそれぞれの事業者や関係者に任せるなど、柔軟性を持たせる考え方がよいのではないか。
	リユース可能な飲料容器を使うというアクションを世界に発信するという事も考えられる。例えば、リユースカップやマイボトルなどを使って販売した飲料の割合を指標にすることも検討できるのではないか。
	容器包装はリデュースの観点から捉えられているが、モノによってはリサイクルのショーケース的な物としてアピールできる容器包装もある。リサイクルの観点からも捉えてみてはどうか。

第11回資源管理WGでいただいたご意見(4/6)

分野	ご指摘事項概要
再生材	紙における古紙利用率のような、インプット側からの指標作成は可能であると考えます。再生材については小宮山先生が非常に気にしているテーマであるため、目標数値は入れないとしても、再生材の使用率ぐらゐの数字は示したい。
	都では、再生材利用の目標を設定しているのは再生砕石だけだが、工事における環境物品等の使用実績の把握は行われており、組織委の工事でも同様にできるのではないかと。
再生可能資源	インプットにおいて、木材使用量というボリュームの観点から指標を作れば、東京大会のシンボルとして宣伝できるのではないかと。
	持続可能でない木材が使用されては困るので、「良い木材」の使用割合という定量的な指標はあってもよいのではないかと。
建設廃棄物	建設廃棄物の中で、アスベスト等特別な扱いを法で求めているものについては、法に基づいて取り扱うことが分かるような表現を考える必要がある。
	建設廃棄物は新設会場以外でも、既存施設改修などで出るのではないかと。建設廃棄物の目標設定の範囲をどのあたりまでにするのか。
	建設廃棄物の範囲において、オリパラ関係のもの全体が入っているのか、大物が入っているのかというチェックが必要である。
	新設段階では建設混廃がそれなりに出るはずである。建設リサイクル法の範囲外の廃棄物が把握できるか気になっている。

第11回資源管理WGでいただいたご意見(5/6)

分野	ご指摘事項概要
CO2 目標群 (運営時廃棄物)	現在のCFPの数字は、LCAのデータベースの数字を掛け算していくようなやり方になっており、廃棄物分だけを抽出するのは大変である。例えば廃棄物の焼却から出てくるCO2など、何か項目を絞り込むという方法があるのではないか。
	CO2だけでなく他の温室効果ガスもおさえるべき。
	循環型社会形成推進基本計画の中でも、リサイクルによるCO2排出量削減などの効果は計算されているので、同様のことを試みてもよいのではないか。
	物品の調達段階でのCO2削減量を計算するのは難しいが、出口段階で計算することは、どのようなデータを出したらよいか難しいが、やろうと思えばできなくはないのでは。
食品廃棄物再資源化	食品廃棄物は、分別をして初めて食品廃棄物としての量を把握することができるが、厳しい分別をしたものがリサイクル施設に持って行かれるため、結果的には分母と分子がほぼ一緒になってしまう印象があり、一工夫が必要。
	実務としては選別後の物しか分母が取れないということかも知れないが、指標では排出段階を捉えようとしているので、それはそれでよいと思う。ただ、リサイクル率が100%でよいかどうかは詰めた方がよい。

第11回資源管理WGでいただいたご意見(6/6)

分野	ご指摘事項概要
その他	そろそろ物品を調達する時期に入っていくが、調達段階で後利用を考えることが重要なので、内部で早めに問題意識を伝え、定着させて欲しい。
	資源をどう分別するかは重要なので、早めに内部で意見交換し、できれば共有して欲しい。環境省でも3R人材ボランティアについて検討している。

「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 持続可能性に配慮した運営計画 第二版」
の構成要素等に関するパブリックコメントへの対応について(資源管理関連)

○募集概要

募集期間：平成29年12月27日～平成30年1月16日

募集方法：公益財団法人オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会のホームページに「持続可能性に配慮した運営計画 第二版の検討内容」を掲載し意見を募集。

○募集結果

意見総数：25件86事項

うち、気候変動分野13事項、資源管理分野32事項、生物多様性等分野4事項
人権労働等分野20事項、参加協働分野5事項、計画の構成等12事項

<寄せられたご意見等>

番号	分野	ご意見箇所	該当箇所	ご意見	対応
3	資源管理	施策の柱立て	p8,3行目	“土”の問題は重要だと思う。土が危機的状況にあると2015年国連が定めた「国際土壌年」は世界土壌科学連合会により「国際土壌の10年」に引き継がれている。日本では殆ど知られておらず世界に遅れていると思う。土は今消えつつある繊細で貴重な資源。(1cmの土が出来るのに数百年かかる)土が消えたら地球上の生命は生きていけない。建設段階から土の利用を適切にすることはもちろん、土に戻る食器を使用するなどして土の大切さについて喚起する機会にも出来たら良いと思う。	いただいたご意見も参考に、土の利用に関連し、大会の資源管理の具体的施策の検討を進めます。

7	資源管理	大目標	p8,6行目	具体性を強調するためには「2020Tokyo（大会）はZero Wasteを目指す」くらいがよいのではないかと「Waste」は具体性のキーワードであると理解している。”Wasting”は、解釈の幅が広がりすぎるのでは。	ご意見について、有識者会議等における意見を踏まえて検討していきます。
	資源管理	施策の方向性	p8,3行目	「そして再生可能エネルギーなどに活用できる廃棄物は今大会を通じ積極的に活用する」を追記してはいかがか。より具体的にするため。	当項目は全体的な方向性に関する記述であるため、いただいたご意見は個別の取組の中で参考とさせていただきます。
	資源管理	施策の柱立て	p10,4・11行目	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の取り組みをこの段階で、もう一段、ブレイクダウンした展開にしてはいかがか。「何に再使用、再生利用するのか」数値目標は次の展開とはしても目標項目は必要な段階と考える。 ・組織の編成にあたる重要な個所のため、「業務分掌、目標、権限（責任）、範囲（大会に関する全業務に横ざし取り組むなど）明確提示が必要。有識者意見をもう少し反映した内容にしては如何か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発生する廃棄物をどのような優先順位で再使用・再生利用するかについて検討をされており、運営計画第二版の中で示していきたいと考えております。 ・管理、推進体制につきまして、出来る限り詳細化し、運営計画第二版の中で示していきたいと考えております。
	資源管理	大目標	p8,4行目	高度循環型社会に向けて、資源をムダなく活用するだけでなく、さらに踏み込んで、廃棄から新たな価値を生み出して再生する「アップサイクル」まで包含されたゴールの設定を希望します。（マイナスをゼロにする印象を受ける）	ご意見も踏まえ、アップサイクルの可能性について、検討いたします。
	資源管理	施策の方向性	p8,1行目	持続可能な社会に向けて、本大会を通じて資源管理分野における循環型イノベーションを起こしていく方向性を記して頂きたいと思っております。	大会ビジョンの中に、イノベーションに関して言及しております。それを踏まえ、資源管理分野の中で、どのような活動ができるか、検討を進めます。

8	資源管理	施策の柱立て	p9,9行目 (C) p10,3行 目 (e)	SDG、資源枯渇の課題への貢献及び可視化が可能な国産の石灰石を主成分にした環境素材LIMEXを五輪で初めて活用し、参加者が手に取る大会MAPや競技プログラム配布物、食品包装、うちわや、運営時に廃棄物となるポスター、ステッカー（ラベル）、ターポリン等の物品で全面的に採用し、専用回収箱を設けて一括回収。大会後にレガシーとして、LIMEX由来のベンチや文房具、食器等の記念品にアップサイクルさせる展開を希望します。（大会前から国民参加型で回収）	いただいたご意見も参考に、大会の資源管理の具体的施策の検討を進めます。
	資源管理	施策の柱立て	p16,14行 目 ③ (b)	水に関して、大会及び都市の水循環に関する取り組みが検討されていますが、グローバルで大きな問題として挙げられている水不足の環境ソリューションである新素材LIMEXを日本の技術として本大会で活用して頂きたいです。	いただいたご意見も参考に、大会の資源管理の具体的施策の検討を進めます。
9	資源管理	大目標	p8	案2が良いと思います。（Zero Wasting）	現在、大目標の検討を行っているところであり、ご指摘も踏まえて検討していきます。
	資源管理	施策の柱立て	p9②全般	書かれている目標や取組には多々共感します。一方で、来場者への周知については盛り込まれていませんが、実際に現場でこれらの取組を実現するには、来場者の理解・協力が欠かせないものも多くあるため、議論の必要があると思います。 また、資源管理は、特定の業者や会場の来場者のみに関わるものではなく、組織委員会の委員のみなさんや当日の運営スタッフ・アルバイト自身もごみを出したり食事を取られるように、深く関係する事項です。委託先や来場者のみに目を向けるのではなく、内部スタッフのみなさんにルールを徹底できるような仕組みや周知についても検討が必要だと思えます。（環境に配慮したイベントの多くは、まずスタッフや関係者にルールを徹底されています）	参加・協働、情報発信についても検討を進めております。大会運営に関わるスタッフに対しまして、資源管理に関する周知について、検討を進めます。
	資源管理	施策の柱立て	p9 (b)	東京都「『持続可能な資源利用』に向けたモデル事業」において、(一財)地球・人間環境フォーラムが大規模スポーツイベントでのリユースカップ導入実証実験を実施されており、独立採算で(新たに費用を捻出する必要なく)リユースカップの運営ができる可能性が高い結果が出ています。現実的な取組の一つとして検討されてはいかがでしょうか。	いただいたご意見も参考に、大会の資源管理の具体的施策の検討を進めます。

資源管理	施策の柱立て	p9 ©	全国各地のイベントで、会場で来場者にごみの分別を促すボランティア活動が実施されています。分別は国や地域によって異なるため、言葉のみの表記では伝わりづらく、また欧米諸国ではごみを燃やさない国も多いため、「燃えるごみ」という表記は理解されないこともあり得ます。ボランティアが立ち直接伝える方がわかりやすく、来場者が資源管理に参加しやすい環境も生まれます。またコミュニケーションが生まれることは「おもてなし」でもありますので、国民参加型の取り組みとしても検討いただきたく思います。	各地のイベントでボランティアによる分別に関する活動が行われており、その意義も認識しております。ご意見も踏まえ、検討します。
資源管理	施策の柱立て	p11,7点目	セキュリティや安全性については、使い捨て食器の場合も同様の懸念が考えられると思います。それならより環境に優しい食器リユースを実践していただきたく思います。	いただいたご意見も参考に、大会の資源管理の具体的施策の検討を進めます。
資源管理	施策の柱立て	p12,4点目	リユースカップやエコバッグの持ち帰りは、その場限りの環境対策ではなく、自宅でも繰り返し使用されることでより環境負荷が軽減され、来場者自身にとっても試合の記念になるとともに、環境対策に参加することにもなります。実際に上記東京都のモデル事業において、12月24日味の素スタジアムで開催されたラグビートップリーグでリユースカップ実証実験が実施され、デザイン性の高いリユースカップを使用した方のうち85.6%が記念に持ち帰ったという結果が出ています。	いただいたご意見も参考に、大会の資源管理の具体的施策の検討を進めます。
資源管理	大目標	p8	案2が良いと思います。(Zero Wasting)	現在、大目標の検討を行っているところであり、ご指摘も踏まえて検討していきます。

資源管理	施策の柱立て	p9②全般	書かれている目標や取組には多々共感します。一方で、来場者への周知については盛り込まれていませんが、実際に現場でこれらの取組を実現するには、来場者の理解・協力が欠かせないものも多くあるため、議論の必要があると思います。 また、資源管理は、特定の業者や会場の来場者のみに関わるものではなく、組織委員会の委員のみなさんや当日の運営スタッフ・アルバイト自身もごみを出したり食事を取られるように、深く関係する事項です。委託先や来場者のみに目を向けるのではなく、内部スタッフのみなさんにルールを徹底できるような仕組みや周知についても検討が必要だと思えます。(環境に配慮したイベントの多くは、まずスタッフや関係者にルールを徹底されています)	参加・協働、情報発信についても検討を進めております。大会運営に関わるスタッフに対しまして、資源管理に関する周知について、検討を進めます。
資源管理	施策の柱立て	p9 (b)	東京都「『持続可能な資源利用』に向けたモデル事業」において、(一財)地球・人間環境フォーラムが大規模スポーツイベントでのリユースカップ導入実証実験を実施されており、独立採算で(新たに費用を捻出する必要なく)リユースカップの運営ができる可能性が高い結果が出ています。現実的な取組の一つとして検討されてはいかがでしょうか。	いただいたご意見も参考に、大会の資源管理の具体的施策の検討を進めます。
資源管理	施策の柱立て	p9 ©	全国各地のイベントで、会場で来場者にごみの分別を促すボランティア活動が実施されています。分別は国や地域によって異なるため、言葉のみの表記では伝わりづらく、また欧米諸国ではごみを燃やさない国も多いため、「燃えるごみ」という表記は理解されないこともあり得ます。ボランティアが立ち直接伝える方がわかりやすく、来場者が資源管理に参加しやすい環境も生まれます。またコミュニケーションが生まれることは「おもてなし」でもありますので、国民参加型の取り組みとしても検討いただきたく思います。	各地のイベントでボランティアによる分別に関する活動が行われており、その意義も認識しております。ご意見も踏まえ、検討します。
資源管理	施策の柱立て	p11,7点目	セキュリティや安全性については、使い捨て食器の場合も同様の懸念が考えられると思えます。それならより環境に優しい食器リユースを実践していただきたく思います。	いただいたご意見も参考に、大会の資源管理の具体的施策の検討を進めます。

	資源管理	施策の柱立て	p12,4点目	リユースカップやエコバッグの持ち帰りは、その場限りの環境対策ではなく、自宅でも繰り返し使用されることでより環境負荷が軽減され、来場者自身にとっても試合の記念になるとともに、環境対策に参加することにもなります。実際に上記東京都のモデル事業において、12月24日味の素スタジアムで開催されたラグビートップリーグでリユースカップ実証実験が実施され、デザイン性の高いリユースカップを使用した方のうち85.6%が記念に持ち帰ったという結果が出ています。	いただいたご意見も参考に、大会の資源管理の具体的施策の検討を進めます。
12	資源管理	大目標	p8	日本語は、「資源を一切無駄にしない」に「持続可能な資源利用」を加え、「資源を一切に無駄にせず、持続可能に利用する」とする。	現在、大目標の検討を行っているところであり、ご指摘も踏まえて検討していきます。
	資源管理	施策の柱立て	p9,9行目(b)	<p>第1版に明記されていた「リユース食器の導入」の実施を検討いただきたい。日本三大祭りとして知られる京都の祇園祭、大阪の天神祭りなど、100万人以上が来場するお祭りやイベント等においてもリユース食器、リユースカップの普及が進む中、持ち帰りを推奨するデザイン性の高いリユースカップを導入し、カップ代を収益として活用するという新たな方式を用いることで、独立採算でリユースカップの運営が実現できる可能性が高い。</p> <p>東京都「『持続可能な資源利用』に向けたモデル事業」として、2017年12月24日に開催したジャパンラグビートップリーグの試合で、リユースカップ導入実証実験を行った。デザイン性の高いオリジナルの限定リユースカップを導入したところ、利用者の85.6%が持ち帰り、非常に好評であった。東京2020大会においても、観客向けの飲料容器として、持ち帰りたくなるような限定デザインのリユースカップを導入し、自宅に帰ってからも東京2020大会の記念品としてリユースできるような仕組みの導入を検討いただきたい。</p> <p>選手村においては、おもてなしの観点からも、選手が食事を美味しく楽しめるように、使い捨てではなくリユースできる食器の導入を検討いただきたい。洗浄に当たっては、既存のリユース食器洗浄工場や、周辺にある大学や企業にある洗浄設備の活用を図ってはどうか。既存のリユース食器洗浄現場には多くの障がい者が働いており、環境と福祉をつなぐと仕組みとしても注目されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カップのリユースについて、いただいたご意見も参考に、大会の資源管理の具体的施策の検討を進めます。 ・食器のリユースについて、リユースするための諸課題を考慮した上で、リユース食器の利用に可能な限り取り組みたいと考えています。リユース食器が利用できない場合には、再生利用を行うことを検討します。

13	資源管理	大目標	p8	(No12とほぼ同じ) 日本語は、「資源を一切無駄にしない」に加えて「持続可能な資源利用」を加え、「資源を一切に無駄にせず、持続可能に利用する」とする。英語は、「Sustainable Resource Use and Zero Wasting」とする。	現在、大目標の検討を行っているところであり、ご指摘も踏まえて検討していきます。
	資源管理	施策の柱立て	p9,10	①(a)～(e)の並べ方をモノのライフサイクル順、(d)(b)(c)(a)(e)に並べ替える。②森林破壊ゼロ (No Deforestation) を(d)に追加し、SDGターゲット15.2 (持続可能な森林管理実施の促進、森林減少の阻止等) と関連付け、指標に持続可能な森林管理のされた木材の調達率を採用する。	①3Rのリデュース・リユース・リサイクルの順とライフサイクル(インプット・アウトプット)の順とを考慮した順番としています。運営計画第二版の記載においては、見せ方に配慮します。 ②木材については、森林保全の趣旨も取り入れた調達基準を策定しており、これに沿った調達を進めてまいります。ご意見も参考とさせていただきます。
15	資源管理	施策の柱立て	p9,11行目	鉄鋼の分野において、再生材の利用を促進することは鉄スクラップの利用を拡大することになるが、鉄スクラップは従来より世界的にリサイクル市場が確立しており、有価で取引されている貿易材であるため、2020大会において恣意的に鉄スクラップの利用を拡大することは、世界のスクラップ市場を不当に歪めるほか、世界の鉄鋼の資源循環システムを破壊する恐れもある。上記のことから、「再生材の利用」という文言を上記趣旨に鑑み慎重に見直して頂きたい。	資源管理の取組にあたっては、再生材の利用に関連する現行法令に則し、引き続き検討していきます。
17	資源管理	施策の柱立て	p10,4行目	会場等で使用される食器に関し、紙カップは、別紙のように持続可能な資源を主原料としているとともにリサイクルが可能であるばかりでなく、衛生面、安全性、手軽さ、経済的である(廉価)といった特長を有しています。また、実際に使用済み紙カップのリサイクルが行われている事例があることから、原材料調達段階から使用後まで資源を循環させることができる容器です。	いただいたご意見も参考に、大会の資源管理の具体的施策の検討を進めます。

20	資源管理	施策の柱立て	p9, 4行目	<p>ロンドン大会の実績も踏まえ、食品ロス削減活動による排出量削減が期待されるころ、脱炭素WG活動へのコベネフィットを踏まえた活動の見える化（排出量削減量の見える化）を期待したい。</p>	<p>食品ロスの取組について、食品ロスの情報が過去大会から十分には得られていないことから、今大会ではまずは食品ロスの見える化に取り組めます。</p>
21	資源管理	大目標	p8	<p>(No12,13とほぼ同じ) 日本語は、「資源を一切無駄にしない」に加えて「持続可能な資源利用」を加え、「資源を一切無駄にせず、持続可能に利用する」とする。英語は、「Sustainable Resource Use and Zero Wasting」とする。</p>	<p>現在、大目標の検討を行っているところであり、ご指摘も踏まえて検討していきます。</p>
	資源管理	施策の柱立て	p9,10	<p>(No13とほぼ同じ) ①資源管理の取組・目標等 (a) ~ (f) に資源調達時の環境・社会・人権等への配慮の項目が欠けているので、順番を変えて (a) として追加する。②森林破壊ゼロ (No Deforestation) を (d) 持続可能な資源管理の項目に追加し、SDG ターゲット15.2 (持続可能な森林管理実施の促進、森林減少の阻止等) と関連付け、指標に持続可能な森林管理のされた木材の調達率を採用する。</p>	<p>①ご指摘の点については、環境・人権・労働・経済等への配慮の趣旨も取り入れた調達コードを策定しており、これに沿った調達を進めていきます。 ②木材については、森林保全の趣旨も取り入れた調達基準を策定しており、これに沿った調達を進めていきます。ご意見も参考とさせていただきます。</p>

22	資源管理	大目標	p8	(NO12,13,21とほぼ同じ) 日本語は、「資源を一切無駄にしない」に「持続可能な資源利用」を加え、「資源を一切に無駄にせず、持続可能に利用する」とする。英語は、Sustainable「Resource「Use「and「Zero「Wasting」とする。	現在、大目標の検討を行っているところであり、ご指摘も踏まえて検討していきます。
	資源管理	施策の柱立て	p9,10	(No13,21 とほぼ同じ) ①(a)～(e)の並べ方をモノのライフサイクル順、(d)(b)(c)(a)(e)に並べ替える。 ②森林破壊ゼロ (No「Deforestation) を(d)に追加し、SDGターゲット15.2 (持続可能な森林管理実施の促進、森林減少の阻止等) と関連付け、指標に持続可能な森林管理のされた木材の調達率を採用する。	①3Rのリデュース・リユース・リサイクルの順とライフサイクル(インプット・アウトプット)の順とを考慮した順番としています。運営計画第二版の記載においては、見せ方に配慮します。 ②木材については、森林保全の趣旨も取り入れた調達基準を策定しており、これに沿った調達を進めていきます。ご意見も参考とさせていただきます。
	資源管理	施策の柱立て	p9, 9行目 (b)	(No12に類似) 第1版に明記されていた「リユース食器の導入」の実施を検討いただきたい。日本三大祭りとして知られる京都の祇園祭、大阪の天神祭りなど、100万人以上が来場するお祭りやイベント等においてもリユース食器、リユースカップの普及が進む中、持ち帰りを推奨するデザイン性の高いリユースカップを導入し、カップ代を収益として活用するという新たな方式を用いることで、独立採算でリユースカップの運営が実現できる可能性を示し、2020年以降のレガシーにつなげる。	・カップのリユースについて、いただいたご意見も参考に、大会の資源管理の具体的施策の検討を進めます。 ・食器のリユースについて、リユースするための諸課題を考慮した上で、リユース食器の利用に可能な限り取り組みたいと考えています。リユース食器が利用できない場合には、再生利用を行うことを検討します。



第12回資源管理WG資料

本日の内容

1. 資源管理分野の大目標及び全体的方向性
2. 調達物品・運営時廃棄物の取組と分別基準
3. 今後の予定

資源管理分野の大目標及び全体的方向性

資源管理の大目標（案）

- Zero Wasting resource use
 - Zero Wasting
 - Sustainable Resource Use and Zero Wasting
- ※日本語：「資源を一切ムダにしない」

資源管理の全体的方向性(案)

【現在】

資源をムダなく活用し、資源採取による荒廃や、廃棄による環境負荷を防ぐ、持続可能な社会を大会を通じて実践し、共有する

【修正案】

資源をムダなく活用し、資源採取による土地の荒廃や、廃棄による環境負荷を抑制する

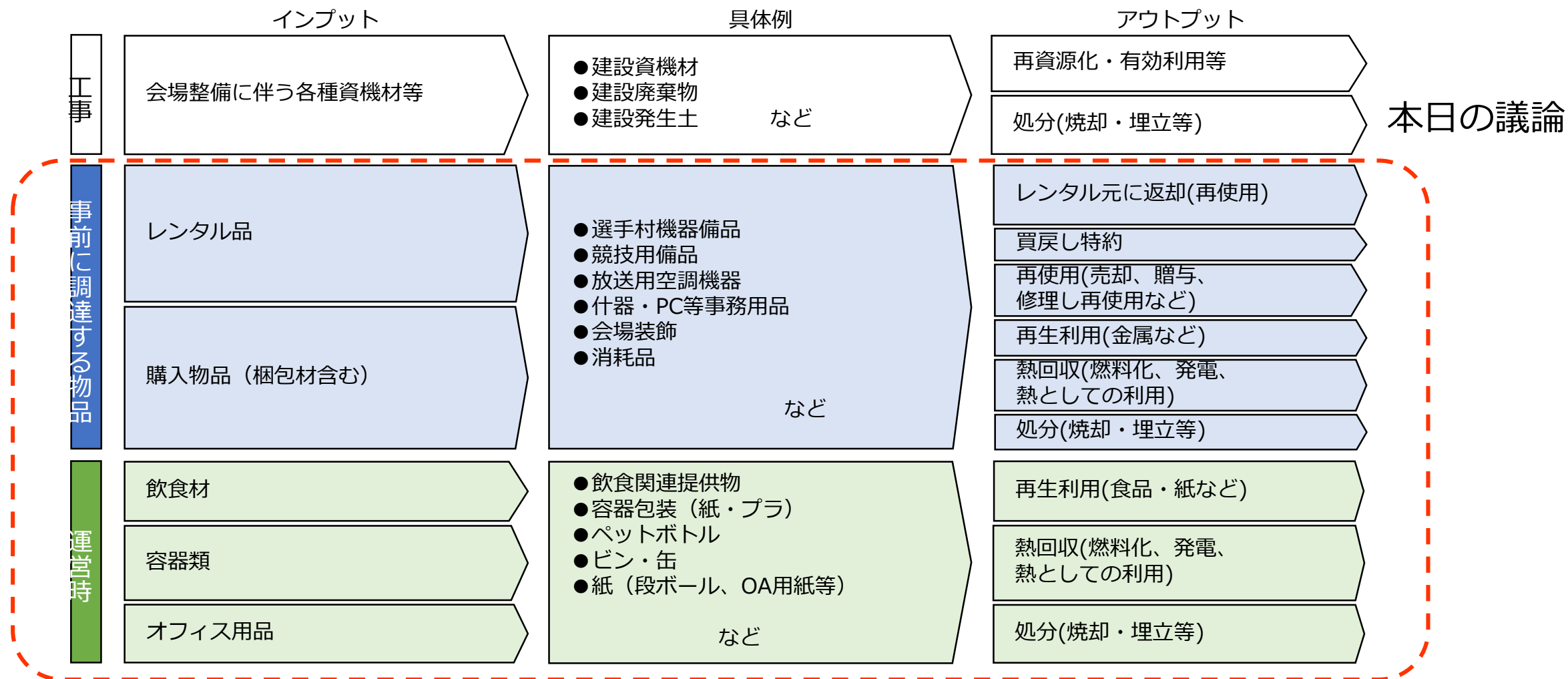
※Zero Wastingの意味について、以下の3点より再整理

- ①資源をwasteしない（無駄にしない）
- ②資源採取により土地をwasteしない（荒廃させない）
- ③廃棄物wasteによる環境負荷を抑制する

資源管理分野の大目標と全体的方向性について、WGの案を固めたい

調達物品・運営時廃棄物の取組と分別基準

大会に関わる物品・廃棄物の概要



調達物品・運営時廃棄物の取組と分別基準

東京2020大会での調達物品・運営時廃棄物の取組の目指したいレベル

【基本的考え方】

- なるべく「廃棄物を出さない（廃棄物にしない）」
- 日本で通常実施されている「リサイクル」は確実に実施

ロンドン2012

調達
物品

- 【目標】会場での余剰資産（什器等）等：90%以上
⇒【実績】全6万トンの99%をリユース・リサイクル

運営

- 【目標】運営上の廃棄物：70%以上

廃棄物合計	約10,000トン	
リユース(re-use)	1700トン	【実績】 リユース・リ サイクル率 62%
リサイクル(recycle)	2908トン	
マテリアル・リサイクル		
堆肥化 (composting)	1706トン	
エネルギー回収等(recovery)	3795トン	(焼却やRPFは 「リサイクル」 と称しない。)
焼却(incineration)	0.3トン	
直接そのまま埋立	0トン	

東京2020

- 物品調達量を減らすためのリース・レンタルの優先化や、使用済物品等のリユース（売却、譲渡等）の取組が必要

⇒【目標レベル】ロンドン大会相当程度のリユース・リサイクル率

- 食品廃棄物やペットボトルなど、日本で通常実施されている品目のリサイクルを確実に実施する必要（競技場、選手村等）

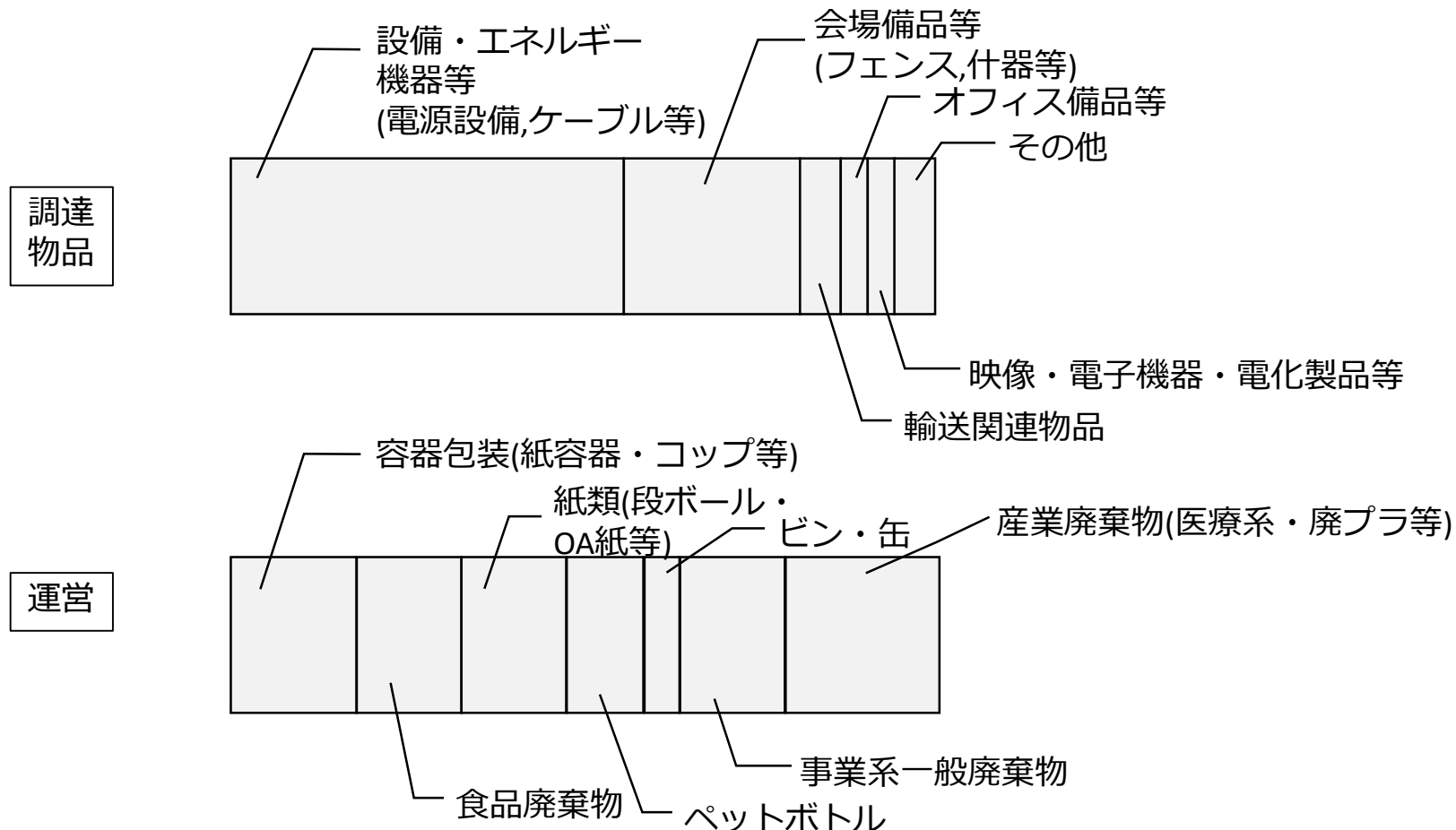
【確実なリサイクルが必要な品目】 →排出段階での分別回収が必要な品目
ペットボトル、紙（段ボール、ちらし、OA用紙等）、ビン・缶、容器包装（紙容器・紙コップ、プラ等）、食品廃棄物（飼料化等）
⇒【目標レベル】ロンドン大会相当のリユース・リサイクル率

※廃掃法上、排出段階で「一廃」「産廃」の分別を行い各処理施設へ持ち込む必要あり。市町村ルールの準拠も必須

調達物品・運営時廃棄物の取組と分別基準

東京2020大会の調達物品・運営廃棄物のイメージ

※大会の調達物品量・運営廃棄物の量は未定のため、持続可能性部の概算



※リユース・リサイクルのための見通し：
基本的にリユース等(レンタル含む)を進めることにより、率の向上を図る。リユースできない場合においても、物品の大半は金属リッチなものと想定されるため、リサイクルは可能。

※事業系一廃や、廃プラ等、エネルギー回収・焼却等の処理となるものも発生するため、全量リサイクルは困難。通常リサイクルされているものを着実にリサイクルすることが重要。

調達物品・運営時廃棄物の取組と分別基準

分別基準(案)

分類		競技会場	選手村	オフィス・ (含ビレッジプラザ)	資源化/処理	
		Secure Perimeter内 (FOH) (観客)	ダイニング			
1	ビン	-	●	●	再生カレット	
2	缶(アルミ・スチール)	●	●	●	再生アルミ/電炉鋼	
3	ペットボトル	●	●	●	ペット樹脂/繊維	
4	紙類	段ボール	○	○	再生段ボール原料	
5		新聞・雑誌・パンフ	●※3	●※3	製紙原料	
6		OA用紙	-			
7	その他の紙	-				
8	容器	紙コップ・紙容器	●※1	●※1	製紙原料/発電(RPF)	
9	包装	プラ容器	●※2	●※2	プラ原料/発電(RPF)	
10	その他プラスチック類		●		発電(RPF)/焼却	
11	レインコート	-	-	-	リサイクル	
12	食品	未食分	(●)※5	-	フードバンク等/リサイクル	
13		食べ残し等	-(可燃)	●	-(可燃)	飼料/肥料/バイオガス
14		飲み残し	●	●	-	下水等
15	可燃ごみ	●	●	●	発電/焼却	
16	燃えないごみ	●	●	●	金属回収・埋立	
17	医療系廃棄物	-	-	(●)※4	焼却	
18	その他	木類	-	○	チップ化等	
19		粗大ごみ	-	-	○	発電・埋立等
計		8(+1)	11(+2)	8(+5)		

日本で通常実施されているリサイクルのためには、左記のような分別が必要となる。実現のためには、ゴミ箱の置き場やバックヤードのスペース、分別に必要な人的リソース、競技スケジュール上の制約等を踏まえ、各会場個別に方策の検討を今後進める必要あり

[凡例] ●：分別する ○：ゴミ箱は不要だが、ヤードに置き場が必要 -：排出の想定なし

※1 条件次第

※3 3段型BOX使用想定。

※2 条件によっては分ける

※4 必要な個所のみ設置 ※5 フードバンク利用の場合

今後の予定

策定までのスケジュール案

持続可能性に配慮した運営計画（第二版） 2018年6月策定予定

WGでの論点(予定)

第12回WG(今回) : 大目標、調達物品・運営時廃棄物の取組と分別について

第13回WG以降 : 計画内容(目標・指標等)詳細について

	2019年			
	3月	4月	5月	6月
第二版策定 スケジュール	★資源管理WG ← 計画案検討 →	★資源管理WG ●委員会 ・持続可能性DG審議 ← IOC意見照会 →	・持続可能性DG審議 ← 第2回パブコメ →	◎策定 ●委員会 ・持続可能性DG審議